

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あんあんclass栄通ルーム			
○保護者評価実施期間	R8年 1月6日		～	R8年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	R8年 1月6日		～	R8年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 1月 30日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所では、子ども一人ひとりの特性を丁寧に理解し、その子に合った支援を提供できる体制が整っていることが大きな強みとなっている。日々の関わりの中で、子どもの興味・得意不得意・感情の動きなどを細かく把握し、安心して過ごせる環境づくりを行っている。今後さらに強化していきたい点としては、将来を見据えた社会性・対人面・適応能力の育成である。子ども自身が自分の得意不得意を理解しながらも、「新しいことに挑戦しようとする気持ち」「困難や壁にぶつかった際の乗り越え方」「社会に出たときに直面する理不尽さや不快感への向き合い方」「やりたくないことにも折り合いをつけて取り組む心の強さ」といった力を身につけられる支援を意識して取り組んでいます。	子ども一人ひとりの特性を丁寧に把握するため、日々の関わりや観察を通して興味・得意不得意・感情の動きなどを細かく記録・共有し、個々に合った支援方法を選択している。活動の中で、成功体験だけでなく「少し頑張ればできる課題」を設定し、挑戦する気持ちや達成感を味わえる機会を意識的に提供している。不快感や理不尽さを感じた場面でも、気持ちの切り替え方・対処の仕方を一緒に考える関わりを行い、適応力や心の強さを育てる支援を意識している。	困難に直面した際の「乗り越え方」や「気持ちの整え方」を実践的に学べるよう、ロールプレイやグループワークなど体験的な活動の充実を図る。また、子どもが自分の得意不得意を理解し受け入れられるよう、自己理解を深めるワークや個別の振り返り支援を強化する。さらに、社会で直面しやすい「理不尽さ・不快感・やりたくないこと」との向き合い方を段階的に経験できる環境づくりを進め、心の耐性を育てる取り組みを充実させる。
2	同一法人である児童発達支援あんあんclassの各ルームと情報共有する事で、児童発達支援から栄通ルームへ移行する際子ども達がスムーズに移行出来ています。当事業所は多機能型のため就学前から通所が可能で未就学から就学後まで環境が変わることなく就学を迎えることが出来るため、就学時の環境変化と重なることなく安心して通所していただくことが可能です。	法人内の各ルームとの情報共有体制を整備し、児童発達支援から栄通ルームへの移行時に、子ども一人ひとりの特性・支援方法・成功体験を事前に共有することで、環境変化による負担を最小限にしている。多機能型事業所としての強みを活かし、未就学から就学後まで一貫した環境で支援を提供することで、子どもが安心して通所できるよう配慮している。	学校や幼稚園・保育園・併用先との情報共有と連携に力を入れていきたいと考えています。子どもが新しい環境に慣れやすいよう、交流活動や合同イベントの機会を増やし、自然な関わりの中で移行を促す取り組みを検討する。
3	職員の研修の充実や連携を今後もより強化していけたらと考えています。職員間の情報共有がしっかり行われていることで、アセスメントにも繋げることが出来ています。	内部研修は毎月行われており、参加出来なかった職員には伝達研修を行う事で情報を共有出来るよう取り組んでいます。療育終了後(送迎後)は全職員で振り返る事が難しい為、必要な情報は共通ツールを利用したり、翌日に振り返りや確認などの話し合いの場を設ける事で統一した支援を提供出来るよう取り組んでいます。	研修内容の充実。内部研修の内容は必須研修の虐待防止関連・BCP・感染症等のものが多く、療育に直接関わる内容のものが少なかったり、グループ内の職員が担当する為専門性に欠ける。今後は外部講師による研修等にも積極的に参加していきたいと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校・幼稚園・保育園・併用先・保護者との情報共有において、学校や園の先生と直接やり取りできる機会が限られているため、現場での子どもの様子を把握しにくい状況がある。保護者を介した情報が中心となることで、実際の姿が十分に見えにくい場合があります。	学校や園の先生が一人ひとりの児童の細かな様子まで把握することが難しい環境にあることや、子どもが学校・家庭・デイで異なる姿を見せるため各機関で共有される情報に差が生じやすいこと、さらに札幌市では相談室を利用していない家庭も多くケース会議の開催が難しいことなどが重なり、学校・家庭・事業所間で子どもの実態を十分に擦り合わせる機会が確保しにくい点が課題の要因として考えられる。	支援の一貫性を高めるため、学校や園での課題や成功体験を保護者から聞き取り、デイでの支援に反映させるなど、間接的な情報でも活かせる仕組みを強化する。必要に応じて、保護者へ「学校や園に確認してほしいポイント」を事前に伝えるなど、情報収集をサポートする工夫を行い、見えにくい部分を補えるようにする。
2	研修への参加率の確保および職員の質の向上が十分に図れていない	研修の実施時間帯が限られているため、勤務状況や家庭の事情等により参加が難しい職員が一定数存在している。	1回あたりの研修時間を短縮し、複数回に分けて実施することで、参加可能な時間帯の選択肢を増やし、より多くの職員が研修に参加できる体制を整える必要がある。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 あんあんclass栄通ルーム

令和 8年
2月 1日 令和 8年 2月 1日

利用児童数 21名

回収数 18

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16	1		1		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	13	2		3		現在は契約児童25名、1日定員10名に対し職員4名～5名(児発管除く)で対応しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14		1	3		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16	1		1		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	1		3		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14	1		3		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16			2		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15	1	1	1		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15		1	2		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	1		2		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	2	3	5		児童クラブや児童館との交流はありませんが、公園等で地域の子どもと遊ぶ機会があります。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	2		4		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	15	2	1			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	2		1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15	1		2		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	12	1		5		
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15	1		2			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15	1		2		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16	1		1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16			2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16		1	1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14			4		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15			3		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	16	2				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	13	4	1		・日によって ・気分によってムラがある	ご家庭での様子や気分の変化についても共有いただきながら職員間で情報を統一し、より安定して通所を楽しめるよう支援の質を高めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	15	2		1	もう少し子どもの話を聞いてほしい	お子さまが安心して話せる環境を整え、気持ちを表現できる時間を確保するとともに、職員間で共有した内容を支援に生かしてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		あんあんclass米通ルーム				公表日	令和 8年 2月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2	・法人本部と別施設の管理者による内部監査を実施している	・外部評価の結果が周知されていないため不明		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7					
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7					

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	7			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	3		・同法人内の施設であれば情報を共有し、過去の支援計画書も参考にしている
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			保護者様と移行先からの要望があれば対応している
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	3		機会を増やせるよう改善策を検討
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4		機会を増やせるよう改善策を検討
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			送迎時や必要に応じて連絡ノートに記入を行っている
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3		情報提供や保護者向けのお手紙など作成しているが、研修は実施できていない
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	2		保護者同士の交流については、茶話会や親子イベントを実施しているものの参加が限られており、今後はより参加しやすい形へ改善していく必要があると考えています。きょうだい児の交流機会についても十分とは言えず、今後の検討課題としています。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5		機会を増やせるよう改善策を検討
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あんあんclass栄通ルーム		
○保護者評価実施期間	R8年 1月6日		～ R8年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	R8年 1月6日		～ R8年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所では、子ども一人ひとりの特性を丁寧に理解し、その子に合った支援を提供できる体制が整っていることが大きな強みとなっている。日々の関わりの中で、子どもの興味・得意不得意・感情の動きなどを細かく把握し、安心して過ごせる環境づくりを行っている。今後さらに強化していきたい点としては、将来を見据えた社会性・対人面・適応能力の育成である。子ども自身が自分の得意不得意を理解しながらも、「新しいことに挑戦しようとする気持ち」「困難や壁にぶつかった際の乗り越え方」「社会に出たときに直面する理不尽さや不快感への向き合い方」「やりたくないことにも折り合いをつけて取り組む心の強さ」といった力を身につけられる支援を意識して取り組んでいます。	子ども一人ひとりの特性を丁寧に把握するため、日々の関わりや観察を通して興味・得意不得意・感情の動きなどを細かく記録・共有し、個々に合った支援方法を選択している。活動の中で、成功体験だけでなく「少し頑張ればできる課題」を設定し、挑戦する気持ちや達成感を味わえる機会を意識的に提供している。不快感や理不尽さを感じた場面でも、気持ちの切り替え方・対処の仕方を一緒に考える関わりを行い、適応力や心の強さを育てる支援を意識している。	困難に直面した際の「乗り越え方」や「気持ちの整え方」を実践的に学べるよう、ロールプレイやグループワークなど体験的な活動の充実を図る。また、子どもが自分の得意不得意を理解し受け入れられるよう、自己理解を深めるワークや個別の振り返り支援を強化する。さらに、社会で直面しやすい「理不尽さ・不快感・やりたくないこと」との向き合い方を段階的に経験できる環境づくりを進め、心の耐性を育てる取り組みを充実させる。
2	同一法人である児童発達支援あんあんclassの各ルームと情報共有する事で、児童発達支援から栄通ルームへ移行する際子ども達がスムーズに移行出来ています。 当事業所は多機能型のため就学前から通所が可能で未就学から就学後まで環境が変わることなく就学を迎えることが出来るため、就学時の環境変化と重なることなく安心して通所していただくことが可能です。	法人内の各ルームとの情報共有体制を整備し、児童発達支援から栄通ルームへの移行時に、子ども一人ひとりの特性・支援方法・成功体験を事前に共有することで、環境変化による負担を最小限にしている。 多機能型事業所としての強みを活かし、未就学から就学後まで一貫した環境で支援を提供することで、子どもが安心して通所できるよう配慮している。	学校や幼稚園・保育園・併用先との情報共有と連携に力を入れていきたいと考えています。 子どもが新しい環境に慣れやすいよう、交流活動や合同イベントの機会を増やし、自然な関わりの中で移行を促す取り組みを検討する。
3	職員の研修の充実や連携を今後もより強化していけたらと考えています。 職員間の情報共有がしっかり行われていることで、アセスメントにも繋げることが出来ています。	内部研修は毎月行われており、参加出来なかった職員には伝達研修を行う事で情報を共有出来るよう取り組んでいます。 療育終了後(送迎後)は全職員で振り返る事が難しい為、必要な情報は共通ツールを利用したり、翌日に振り返りや確認などの話し合いの場を設ける事で統一した支援を提供出来るよう取り組んでいます。	研修内容の充実。内部研修の内容は必須研修の虐待防止関連・BCP・感染症等のものが多く、療育に直接関わる内容のものが少なかったり、グループ内の職員が担当する為専門性に欠ける。 今後は外部講師による研修等にも積極的に参加していきたいと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校・幼稚園・保育園・併用先・保護者との情報共有において、学校や園の先生と直接やり取りできる機会が限られているため、現場での子どもの様子を把握しにくい状況がある。保護者を介した情報が中心となることで、実際の姿が十分に見えにくい場合があります。	学校や園の先生が一人ひとりの児童の細かな様子まで把握することが難しい環境にあることや、子どもが学校・家庭・デイで異なる姿を見せるため各機関で共有される情報に差が生じやすいこと、さらに札幌市では相談室を利用していない家庭も多くケース会議の開催が難しいことなどが重なり、学校・家庭・事業所間で子どもの実態を十分に擦り合わせる機会が確保しにくい点が課題の要因として考えられる。	支援の一貫性を高めるため、学校や園での課題や成功体験を保護者から聞き取り、デイでの支援に反映させるなど、間接的な情報でも活かせる仕組みを強化する。 必要に応じて、保護者へ「学校や園に確認してほしいポイント」を事前に伝えるなど、情報収集をサポートする工夫を行い、見えにくい部分を補えるようにする。
2	研修への参加率の確保および職員の質の向上が十分に図れていない	研修の実施時間帯が限られているため、勤務状況や家庭の事情等により参加が難しい職員が一定数存在している。	1回あたりの研修時間を短縮し、複数回に分けて実施することで、参加可能な時間帯の選択肢を増やし、より多くの職員が研修に参加できる体制を整える必要がある。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 あんあんclass栄通ルーム

公表日 令和 8年 2月 1日

利用児童数

4名

回収数 4

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	4					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	4					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4					
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	4					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	4					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	4					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	4					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	1		1	2		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	4					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	4					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3	1				
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	3	1				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3	1				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3			1		
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	4					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	3			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	4					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3			1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	4					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	4					
	29	事業所の支援に満足していますか。	4					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 あんあんclass栄通ルーム

公表日 令和 8年 2月 1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2	・法人本部と別施設の管理者による内部監査を実施している	・外部評価の結果が周知されていないため不明
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			
適切 な 支 援 の 提 供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		・同法人内の施設であれば情報を共有し、過去の支援計画書も参考としている	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7			
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	3	機会を増やせるよう改善策を検討		
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎時や必要に応じて連絡ノートに記入を行っている		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3		情報提供や保護者向けのお手紙など作成してはいるが、研修は実施できていない	
4	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	2		保護者同士の交流については、茶話会や親子イベントを実施しているものの参加が限られており、今後はより参加しやすい形へ改善していく必要があると考えています。きょうだい児の交流機会についても十分とは言えず、今後の検討課題として
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5		機会を増やせるよう改善策を検討
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7				
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7				